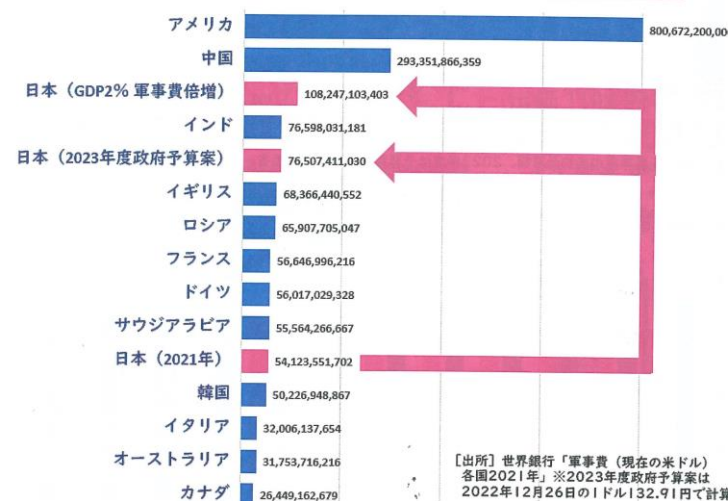


資料1 「軍事費倍増」とは



軍事費倍増で日本は世界3位の軍事大国に 2023年度政府予算案はすでに世界4位



「学習の友」
2023年3月号
井上伸氏作成資料

資料2 就学前施設の適正規模

南泰代氏(奈良女子大学)「巨大化する『認定こども園』の子どもにとっての適正規模」(2017年度日本地理学会秋季学術大会発言要旨集)から竹永まとめ

●調査概要

- ・2016年4月時点の全国4001園の認定こども園を1-50人、51-100人、101-150人、151-200人、201-250人、251-300人、301人以上に区分し、区分ごとに各1園、都道府県ごとに選択した園209園に対し質問紙調査と聞き取り。

●筆者の考察

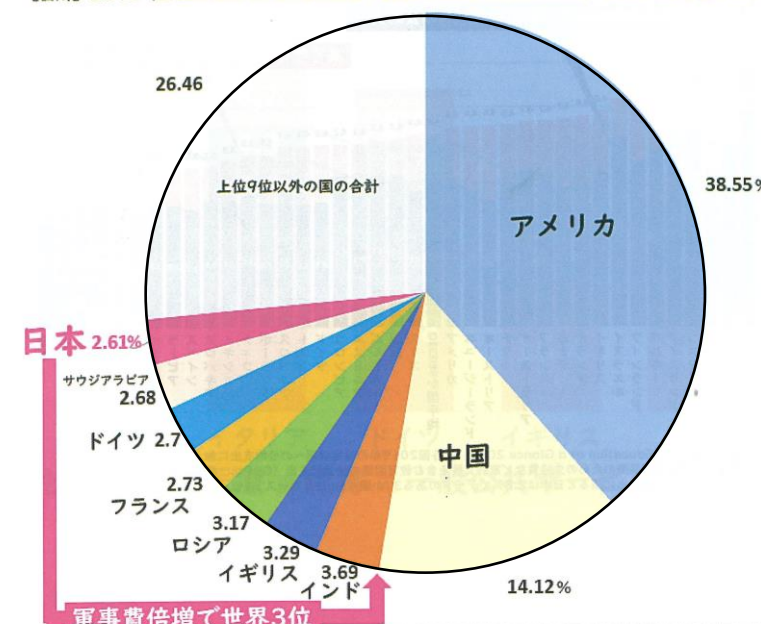
- ・保育者交流と園児交流の割合は高い方が園児にとって保育環境が良いと考えられる
- ・子どもにとっての認定こども園の適正規模は150人と考える

●調査結果

・全保育者とチームワークがとれている	→	・51人以上の施設で割合が減少
・全園児と送迎保護者が一致する	→	・1-50人の施設で割合が高い
・全園児の保護者と園児の話ができる	→	・151人以上の施設で割合が減少
・全保育者と園児のことで相談できる	→	・1-50人の施設で非常に高い
・全園児の顔と名前が一致する	→	・51-100人の施設と101-150人の施設で高い
・全園児と話ができる	→	・151人以上の施設で低い
・保育者交流の割合		
・園児交流の割合		

世界の軍事費シェア 日本は現在世界9位 中国は日本の5.4倍 軍事費倍増で世界3位

【出所】SIPRI (Stockholm International Peace Research Institute) 2021年軍事費シェア



資料3 統合・民営化による巨大化園の例

南方・岡山中央(280)、鹿田(320)、財田(320)

オミクロン株 感染力の秘密

新型コロナウイルスは、変異を繰り返しながら感染力を増してきました。なかでも世界的な感染の急拡大を引き起こしたオミクロン株が、ある特異な性質をもっていることを、日本大学などの研究チームが発見しました。感染力の強さの秘密の一端を握るとみられるその性質とは―。

(中村秀生)

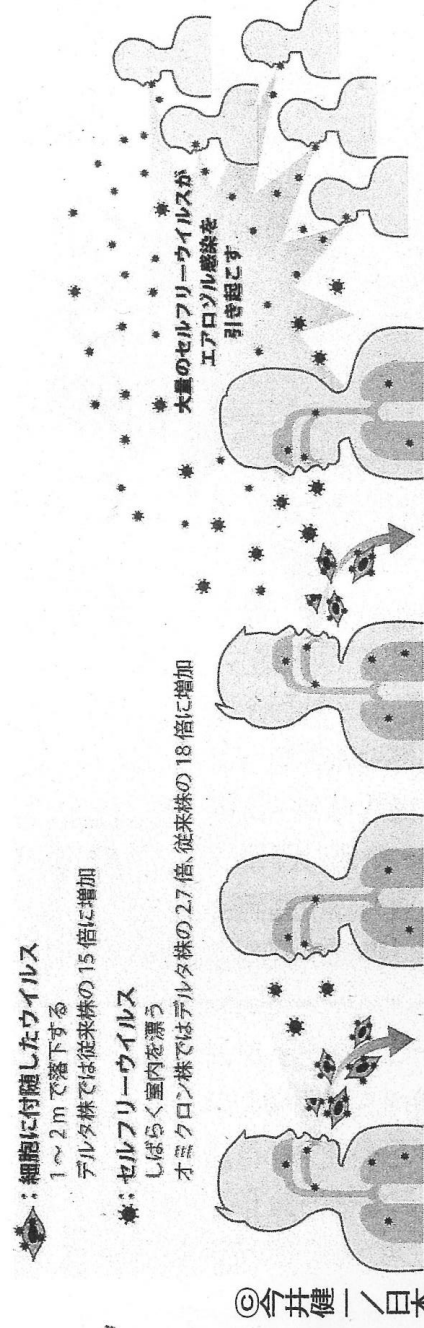
気になる
サイエンス

新型コロナウイルスは口の中の細胞に感染して増殖するため、感染者の唾液中には多量のウイルスが含まれています。それが、会話やせき、くしゃみの際に放出され、飛沫(ひまつ)やエアロゾル(空気中を漂う微粒子)として他者に伝播(でんぱ)します。

日大の今井健一教授と田中一研究員らは、唾液に排出されるウイルスの量や状態が、変異株ごとに異なり、それが感染力の違いを生んでいる可能性に注目しました。

細胞の内部にあつた周囲にくっついていたりするウイルス(細胞付随ウイルス)と、細胞と離れて存在している「裸」の状態の「セルフリーウイルス」とでは、空気中での挙動が異なります。ウイルスが付随した感染細胞は平均15分ほど大きくて重いため、飛沫とともに放出されても1メートルほどで落下します。一方のセルフリーウイルスは微小で軽く、エアロゾルとして空気中に長時間漂うため、感染を引き起こしやすいと考えられます。

"裸のウイルス" 空中浮遊!?



◎今井健一/日本大学

しんぶん赤旗
2023年
2月11日付

オミクロン株の感染様式

従来株・デルタ株の感染様式

セルフリーウイルスは、細胞付随ウイルスの3倍近い速さで、新たな未感染の細胞に感染できるという特徴も知られています。

従来株の17.7倍

今井さんは、名古屋市の高田内科クリニックの高田統夫院長、横浜市のアスヨシ歯科医院の池野良院長と協力して、従来株、デルタ株、オミクロン株について、患者90人から採取した唾液中のウイルス総量と、唾液から遠心分離で細胞成分を除いた上澄み液に含まれるセルフリーウイルスの量を測定しました。

唾液中のウイルス総量は、従来株(1cc中に約123万個)と比べて、デルタ株が15.1倍、オミクロン株が7.7倍でした。

セルフリーウイルスの量は、従来株と比べて、デルタ株が6.5倍、オミクロン株は17.7倍。唾液中の全ウイルスに占めるセルフリーウイルスの割合は、従来株が5.9%、デルタ株が4.8%だったのに対して、オミクロン株は21.3%と

突出していました。

「これまでとは違った結果は予想しておらず、驚きました。逆に『だから爆発的感染が…』と確信し、興奮しました」と今井さんは振り返ります。

研究チームは、唾液くのセルフリーウイルスの排出量の多さがオミクロン株の感染力を高めたと因循だみています。オミクロン株は他の株よりも口の中の細胞内での増殖が速く、よき多く唾液に出ているとみられます。

世界初の提唱

研究チームは、今回の発見がオミクロン株の流行状況を説明できることも、密閉空間でのマスク着用や換気の重要性を裏づけるものだと指摘。感染におけるセルフリーウイルスの重要性を世界で初めて提唱したものであり、この概念は新型コロナウイルスに限らず他の感染症にも適用されると意義を強調しています。

論文は1月9日、米国医師会が発行する『JAMAネットワーク・オープン』に掲載されました。